

**横浜市指定管理者第三者評価
第4期横浜市青少年野外活動センター
評価シート**

横浜市青少年野外活動センター指定管理者選定評価委員会

目次

1. 総評	3
2. 団体の状況	5
(1) 応募理由	5
3. 職員配置・育成	7
(1) 職員の確保、配置及び育成	7
4. 施設の管理運営	9
(1) 施設及び設備の維持保全・管理、修繕等への取組及び事故防止体制・緊急時（防犯）の対応、 防災に対する取組	9
(2) 利用者ニーズ・要望・苦情への対応及び個人情報保護・情報公開への取組	11
5. 事業の企画・実施	13
(1) 野外活動の普及・振興のための考え方や方針	13
(2) 野外活動センター3施設の特性と連携	15
(3) プログラムの開発と実施計画	17
(4) 広報活動及び利用促進	23
(5) 学校教育機関・他青少年施設・地域等との連携や協働	25
6. 収支計画及び指定管理料	27
(1) 収支計画及び指定管理料	27

<評価の考え方>

- A: 提案書以上の成果を挙げている
- B: 提案書どおりの成果を挙げている
- C: 提案書の成果が挙がっていない

1. 総評

指定管理者記入欄	選定評価委員会記入欄
<p>【取組事項等】</p> <p>当団体は第4期横浜市青少年野外活動センターの指定管理者として、青少年の健全育成を第一に、多種多様な対象と目的のお客様のニーズに応じたサービスの提供をし、市民が元気になる野外活動センターとなるように運営を行っています。</p> <p>施設の維持管理では、これまでの管理運営経験や職員による日常清掃や日常点検とあわせて、ボランティアによる植栽・環境美化活動や、専門業者による定期点検を行い、安全・安心・快適に利用できる施設としています。</p> <p>お客様サービスにおいては、with コロナ、after コロナとも、感染症予防対策を適宜講じながら、自然環境の中でリアル体験する野外活動、創意工夫したり仲間や異世代と協力したりして課題解決していくプログラム、SDGs や防災の取り組み、体力向上や健康維持など、地域や関係団体、ボランティアとの連携のもと、提供しています。また、施設の空き状況に応じて青少年団体以外の利用を積極的に受け入れています。野外炊事の食材注文やレンタル、物品の販売を行っています。</p> <p>お客様、関係団体のご意見やご要望、所管局との情報交換、施設長会等を通じて、日々の業務改善に取り組んでいます。</p> <p>広報活動では、ホームページを大幅にリニューアルし JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠、ウェブアクセシビリティの改善を図り、スマートフォンやタブレットでも見やすい構成としました。ホームページの写真や SNS による発信で、教室事業や施設の様子が伝わるよう工夫しています。</p> <p>3施設一体や当団体全体での業務委託や物品購入など、スケールメリットを活かした契約、電子決済システムや Zoom の導入により経費や時間の縮減を行う一方、コロナ禍の影響で利用にかかる収入が提案目標に届かない分は、教室事業収入でカバーしています。</p> <p>令和5年5月に新型コロナウイルス感染症は第5類に移行し通常営業となりましたが、約3年間続いたコロナ禍の影響は、今でも1利用団体の人数や宿泊利用者減として現れており、令和3年当時に提案した利用目標数達成には厳しい状況です。学校や子育て世代の利用を増やすためのプログラムや広報を行い、第4期指定管理期間内にコロナ禍以前の利用人数に戻ることを目指します。</p>	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの5類移行はあったものの、コロナ禍の影響が残る中で、第4期横浜市青少年野外活動センターの指定管理者として、青少年の健全育成を第一に、多種多様な対象者のニーズに応じたサービスの提供、安全性に配慮しつつ少人数や個で楽しめるプログラムの開発・提供や教室事業の展開を図るなど、野外活動の普及・振興に地道な努力を続け、市民が元気になる野外活動センターとして運営を行っている」と評価できる。これまでの管理運営経験を生かして、安全・安心・快適に利用できる施設が維持されている。 ・お客様サービスにおいて、前期後半からのコロナ禍の諸経験を踏まえ、適切な感染症予防対策の下、野外活動、仲間や異世代と協力する課題解決プログラムなどを提供できている。また、SDGs やインクルーシブの視点、防災など、時代の流れの中で重要性を増しているテーマにも取り組むなど、プログラムの充実が図られている。 ・施設利用者や関係団体の意見や要望、所管局との情報交換、施設長会等を通じて、日々の業務改善に取り組んでいる点も評価する。 ・広報活動においては、顕著な改善が認められた。ホームページを大幅にリニューアルし JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠、ウェブアクセシビリティの改善を図り、スマートフォンやタブレットでも見やすい構成としている。今後、改善の効果が期待される。 ・収支に関しては、団体のスケールメリットを活かした契約、電子決済システムや Zoom の導入等による経費や時間の縮減が図られた点、利用収入の減額を教室事業収入でカバーしている点、3施設を一体的に効率よく運営管理している点など、コロナ禍で収入が減る中で効果的に収益をあげる工夫が認められる。

	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の影響もあり、令和3年当時に提案した利用目標数の達成には届いていないことは、社会情勢上、やむを得ない面があることから、改めて今、青少年に必要な野外活動を見直し、プログラムの充実を図り、質の充実を図ってほしい。・学校や子育て世代の利用を増やすためのプログラムの提案や広報活動の展開によって、更なる利用者増を目指してほしい。
--	--

2. 団体の状況

(1) 応募理由

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
横浜市の青少年育成のための施策及び子ども・青少年や子育てを取り巻く横浜市の特性と当団体の課題認識 横浜市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている		A	B	C	A	B	C
	野活センターの管理運営基本方針 管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されている	A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄		選定評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】 〔課題認識・役割分担〕 少子化や地域のつながりの希薄化に加え、コロナ禍における生活様式の変化で、野外活動への参加機会や野外活動時間の減少が見られます。その中において、自然体験学習や宿泊体験におけるプログラムの提案・提供、放課後児童クラブ等青少年団体・グループ利用の支援、自主事業として幼児向け・児童向け・家族向けの教室事業を実施、地域の野外活動指導者やボランティア、近隣大学との連携、ホームページの充実やSNS発信することによって、「横浜市子ども・子育て支援事業計画」にある「こども・青少年が様々な力を育み、健やかに育つ環境をつくる」ため、野外体験活動に触れる機会・プログラムの充実を図るようにしています。</p> <p>〔管理運営方針〕 第4期のコンセプトは「こども・青少年が健やかに育つ、そして市民が元気になる野外活動センター」です。</p> <p>青少年や子ども向けの事業としては、鶴見川を活用したカヤック体験や、防災・SDGsをテーマにしたキャンプ等を実施しています。</p> <p>管理業務では、1日2回以上の日常点検を行い必要な修繕を実施、職員で対応できない点検等は専門業者への委託しています。</p> <p>事業においては、野外活動の指導や実践を希望する方向けに当団体が実施している「アウトドアリーダー養成講座」の卒業生をはじめ、地域やボランティアとの協力体制が築かれており、大学との連携も進めています。</p> <p>また、利用者からの声やアンケート結果を事業へ反映させています。</p>		<p>【現状の評価】 〔課題認識・役割分担〕 ・コロナ禍の影響が残る中で、「こども・青少年が様々な力を育み、健やかに育つ環境をつくる」ため、野外体験活動に触れる機会・プログラムの充実を図っている。 ・横浜市子ども・子育て支援事業計画を理解し、その実現を目指して野外活動体験の機会やプログラムが提供されている。</p> <p>〔管理運営方針〕 ・施設の管理運営を堅実に担うとともに、アウトドアリーダー養成講座の卒業生、地域やボランティアとの協力体制の構築に取り組んでいる点を評価する。 ・利用者からの声やアンケート結果を事業へ反映させている点を評価する。 ・提案書で示された考え方である「人」「プログラム」「フィールド」の3要素の整備に即して、施設の管理運営が図られている点を評価する。 ・地域の野外活動指導者やボランティア、近隣大学と連携することや、ホームページの充実、インスタグラムの活用発信は野外活動経験者にとっても、未経験者にとっても期待が高まり参加意欲が湧いてくるように取り組んでいる点を評価する。 ・日ごろから、青少年や子ども向けに防災・SDGsをテーマにしたキャンプが実施され、将来必要な経験の提供が行われている点を評価する。</p>					

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の方や利用団体責任者等の声を直接伺う「横浜市青少年野外活動センター運営懇話会」の開催を見送っていましたが、まずはくろがねで令和6年2月に開催予定です。</p> <p>第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画は令和6年度まで、第4期横浜市教育振興基本計画は令和7年度までですが、新たな施策や野外活動センターに期待される役割を検討し、社会情勢にあわせながら、様々な担い手による社会全体で子ども・青少年への支援が実践できるよう、関係団体との連携、協力者や理解者を増やしていきます。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後の取組に特に注目したい。コロナ禍前に戻ることを目標とするのではなく、この間の変化を丁寧に読みとき、新たな取組を展開することを期待する。 ・関係諸団体や、同じ野外活動を実施している他所のセンターと連携して、地域の声を直接聞いていく機会の創出に取り組んでほしい。 ・年度が終了するごとに事業実績を検証し、その結果を次年度計画に反映させていくことを期待する。 ・SDGs をテーマにした事業の推進においては、市内小中学校のESD との連携にも取り組んでほしい。
--	--

3. 職員配置・育成

(1) 職員の確保、配置及び育成

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
安全かつ効率的な管理運営体制	安全かつ効率的な管理運営体制	A	B	C	A	B	C
	安全かつ効率的な運営を維持する体制が確立している						
人材育成計画	人材育成計画	A	B	C	A	B	C
	職員の育成、資質向上に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】 〔安全かつ効率的な管理運営〕 各施設には、施設の管理運営及び野外活動・スポーツ指導の経験豊富な3人（令和5年度くろがね4人）の常勤職員、お客様への安全な活動支援や管理運営業務をサポートするアルバイト職員を配置し、利用状況に応じた柔軟なシフト体制をとって運営しています。また、施設ボランティアとの協働により植栽等の環境保全を行うほか、教室事業では当団体が育成した野外活動指導者や学生の協力により、安全で質の高い事業を展開しています。</p> <p>施設内でクラスター等が発生した際には、他施設や事務局の職員が開館・運営ができるよう、マニュアルを整備、バックアップ体制を確立し、緊急時に備えています。また、発注・支払事務を当団体事務局に集中、電子決済システムを導入することで、適正で効率的な経理処理を可能としています。</p> <p>〔人材育成〕 職員研修は職場における実務研修（OJT）を基本とし、施設管理運営業務や野外活動の指導・相談業務などは経験が豊富な施設長や、公益社団法人日本キャンプ協会認定キャンプディレクター1級の資格を持つ職員が講師となり随時実施しています。</p> <p>指導・相談業務で必要となる専門研修については、神奈川県立青少年センター主催の研修会に参加したり、キャンプディレクター養成講習会に参加したりして資格を取得するなど、個々の職員の資質向上に努めています。</p> <p>当団体では組織の活性化と職員のモチベーションを高めるため人事考課制度を導入、また、職員研修計画を策定、全職員を対象にコンプライアンス、人権、個人情報などの研修を義務付けているほか、横浜マラソン等の大規模スポーツイベントへ従事や、障害者スポーツ支援事業への参加を通じて、野</p>				<p>【現状の評価】 〔安全かつ効率的な管理運営〕 ・これまでの管理運営経験を生かした通常の体制の一層の充実に加えて、マニュアルの整備や他施設の事務局職員のバックアップ体制など、緊急時の体制を確立できている点を評価する。</p> <p>・電子決済システムの導入により、適正で効率的な事務処理を行っている点を評価する。</p> <p>・本部の役割も明確にされており、施設現場との連携が図られるなど、団体全体で事業を円滑に進める体制が構築されている点を評価する。</p> <p>〔人材育成〕 ・実務研修（OJT）を基本とし、施設管理運営業務や野外活動の指導・相談業務などは経験が豊富な施設長や、公益社団法人日本キャンプ協会認定キャンプディレクターの資格を持つ職員が講師となり随時実施するなど職員の資質向上に努めている。</p>			

<p>外活動以外の業務も経験するようにしています。</p>	
<p>【今後予定している取組等】 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として3施設合同の集合研修を見送っていたため、今年度中に合同研修会を再開します。これにより、施設間での指導技術の平準化、新規開発プログラムの共有を行います。 また、コロナ禍において、アルバイト新規雇用を見送ってきたため、今後コロナ禍以前の水準に利用が回復してくると人員が足りず、施設運営や教室事業に影響が出るおそれがあります。そのため、近隣の大学等との連携、野外活動ボランティアや新規アルバイトの募集などにより、人員を確保します。青少年施設スタッフとして、こどもの安全や人権を守るよう、事前に研修を実施します。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】 ・コロナ禍により見送られてきた合同研修会等を再開し、施設間の指導技術の平準化や新規開発プログラムの共有化を果たすことを期待する。 ・利用者数が回復することを想定して、新規アルバイトの雇用による人材確保や、近隣大学や地域の野外活動に興味を持っている地元人材のボランティアをスタッフに加え OJT を含め経験豊富な先輩職員等による研修等の人材育成をしてほしい。 ・コンプライアンス、人権、個人情報などの研修に加え、働く職員、アルバイトのストレスチェックを実施し本音を吸い上げてほしい。 ・子どもへの性加害が問題となる社会情勢を踏まえ、「チャイルド・プロテクション」「子どものセーフティーガーディング」といったものに対して組織として安全管理マニュアルに明記され、そのための研修などが計画されるなどの人材育成を期待する。 ・より積極的な若い職員のリクルートや育成するための具体的な計画を作成されることを期待する。</p>

4. 施設の管理運営

(1) 施設及び設備の維持保全・管理、修繕等への取組及び事故防止体制・緊急時（防犯）の対応、防災に対する取組

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
施設の維持管理について	施設の保守管理、維持管理に取り組むとともに、地球温暖化対策等、環境へ配慮した取り組みを行っている	A	B	C	A	B	C
	事故防止、危機管理等への対応について	A	B	C	A	B	C
安全管理、危機管理への対応、事故防止に向けた対策を講じている		A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>〔施設の維持管理〕</p> <p>3施設ともに建築物・設備の老朽化が著しく、横浜市による長寿命化の大規模修繕の予算化を待つ状況です。そのため、職員による日常点検による不具合の早期発見と予防保全の考えに基づく修繕は、お客様の安全を優先した計画を立てて実施しています。また、小規模な補修等は、職員をはじめボランティアとともに可能な限り実施しています。</p> <p>設備等の維持管理や定期清掃などについては、専門業者に委託し、計画通りに実施しています。また、専門業者による建築物及び設備の12条点検（法定）での指摘事項は、優先順位を上げて実施しています。</p> <p>植栽管理についても、基本は職員やボランティアによる剪定や草刈りを行っています。ナラ枯れによる樹木の伐採は専門業者に委託して実施するなど、安全や環境への配慮を心がけています。</p> <p>地球温暖化対策はSDGsの考えのもと、お客様には野外炊事での節水や宿泊室での節電などを呼び掛けていますが、猛暑による熱中症にも配慮しつつ取り組んでいます。</p> <p>〔事故防止・危機管理〕</p> <p>安全対策の基本は、日常点検で発見した異常や危険に迅速な対応をすることです。危機管理マニュアルを整備、緊急時連絡体制を構築、防災訓練を実施しています。</p> <p>大規模地震や雷・豪雨・豪雪・光化学スモッグ等発生時には、施設点検、インターネットや当団体内で構築しているイントラネット上での掲示板等を活用し情報収集し、有事の際の利用者の安全確保に努めています。</p>				<p>【現状の評価】</p> <p>〔施設の維持管理〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物・設備の老朽化が進む中で、職員による日常点検に基づいて不具合を早期発見し、予防保全に基づく修繕を丁寧に実施している。 ・日々の清掃や専門業者への定期清掃の委託などにより清潔さが保たれており、地球温暖化対策等も含めた建物内外の美化に配慮が行われている。 <p>〔事故防止・危機管理〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの整備、緊急時連絡体制の構築、防災訓練を実施等、事故防止・危機管理対策が十分に講じられている点を評価する。 			

<p>野外活動プログラムにおいて使用頻度の高い野外炊事用具については、貸出し前点検や補修は必須となります。また、利用打合せや入所式等での危険箇所や危険生物などへの注意喚起の徹底、くろがねでは蜂トラップを設置し予防策を講じています。</p> <p>ケガや事故などが発生した場合には、マニュアルに沿って一次対応、救急隊や警察、点検業者への連絡、こども青少年局青少年育成課や当団体事務局への報告を行っています。</p> <p>ヒヤリハットの事案については、施設長会等で情報共有を行い、対策を検討し、施設職員に周知徹底をしています。また、職員自身の事故防止対策として、業務上必要な草刈り機等の安全講習を受講しています。</p> <p>食品衛生責任者講習会の受講、防犯カメラやAEDの設置、施設賠償保険への加入など日頃からの備えを万全にしています。</p>	
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>12条点検における指摘事項や日常点検等で発見した不具合について、限られた予算の中での優先順位をつけ、老朽化対策に積極的に取り組んでいきます。また、大規模な修繕については、横浜市との連携を密にし、計画的な修繕が実施できるように調整していきます。</p> <p>今後も引き続き、日常の安全点検や巡視点検により事故予防・防犯対策に努めていきます。業務上必要な草刈り機等の安全講習については、全員受講を計画していきます。</p>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3施設ともに建築物・設備の老朽化が進む状況下で、横浜市との連携を密にし、特に水回りの故障などが目立つようになっていることから、水漏れや漏電といった事故が起きぬよう、安全を最重視した計画的な修繕が実施できるように努めてほしい。 ・初期の段階での手当、保全修理は必須であり、職員やボランティアだけではなく、近隣の力を借りて安全な環境整備を望む。 ・作成した危機管理マニュアルについて、常に見直しを図り、さらに必要な訓練も確実に実施していただきたい。 ・熱中症対策としてミストや扇風機・冷風機の活用、一室だけでも冷房を効かせ逃げ場をつくる、学校などでも活用されている WBGT（暑さ指数）測定機などを活用した対策など、今後も対策を検討してほしい。

(2) 利用者ニーズ・要望・苦情への対応及び個人情報保護・情報公開への取組

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
モニタリングの実施について 事業評価及びPDCA マネジメント等により、事業改善につなげている		A	B	C	A	B	C
		A	B	C	A	B	C
ご意見・要望、苦情の積極的な受付と反映 お客様の意見、要望を反映させる体制が確立している		A	B	C	A	B	C
		A	B	C	A	B	C
個人情報保護及び情報公開に対する取り組みについて 徹底した個人情報保護及び透明性を確保する情報公開に取り組んでいる		A	B	C	A	B	C
		A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄		選定評価委員会記入欄					
【評価の根拠】 [モニタリング] [ご意見・要望、苦情の対応] お客様のご意見、ご要望を収集する手法としては、紙のほか、グーグルフォームを活用したアンケートを中心に行っています。また、お客様との積極的なコミュニケーションを心掛け、直接ご要望や感想をお聞きすることにも取り組んでいます。こうした利用団体の引率者や教室事業の参加者・保護者から寄せられた満足度評価はもとより、直接お聞きしたり書き込まれたりした声には、職員のみならず教室スタッフ・講師とも共有し、施設の管理運営や教室事業の改善のためのヒントとしています。 こうしたご意見・ご要望の声に対する改善活動は、各施設で取り組むとともに毎月の施設長会で共有し、こども青少年局青少年育成課との連絡会において報告しています。 さらに、地域の方や利用団体責任者等から直接お話を伺い意見を交換する場として「運営懇話会」を、今年度はくろがね青少年野外活動センターにて開催します。 [個人情報保護・情報公開] 令和4年8月にプライバシーマークを更新しました。毎年、職員全員に対し個人情報保護研修を実施、教室スタッフも研修を受講し、個人情報の守秘義務を徹底しています。また、定期点検や内部監査により、個人情報保護体制を確立しています。 また、透明性のある施設管理運営のため、「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に則り、当団体は「保有する情報の公開に関する規程」を整備し、適切に対応しています。		【現状の評価】 [モニタリング] [ご意見・要望、苦情の対応] ・アンケートのみならず、要望や感想を直接聴取し、それを職員だけでなく教室スタッフ・講師とも共有し、施設の管理運営や教室事業の改善に努めている。 ・紙媒体だけでなく、グーグルフォームを活用するなどコロナ後の現代のニーズに合った方法でのモニタリング、意見・要望、苦情などアンケートの取組ができています。 [個人情報保護・情報公開] ・令和4年8月にプライバシーマークを更新し、職員全員に対し個人情報保護研修を実施、教室スタッフも研修を受講する等、個人情報の守秘義務を徹底できている。また、団体として「保有する情報の公開に関する規程」を整備し、適切に対応している。					

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>三ツ沢で先行実施しているグーグルフォームを活用したアンケート手法は、効果等を見極めながら、くろがね・こども自然でも実施していきます。</p> <p>地域や利用団体の声を直接伺う「運営懇話会」は、三ツ沢・こども自然でも順次開催していきます。</p> <p>アンケートや運営懇話会でいただいたご意見等については、優先順位をつけ、実現に向け調整していきます。</p> <p>今後もプライバシーマークを更新し、適切な個人情報保護に努めていきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を職員だけでなくスタッフ・講師、施設長会で共有することを引き続き推進してほしい。 ・利用団体アンケートにおいて、指導者だけでなく、子どもの意見や感想も収集し、その結果を事業の充実に還元していくことが望まれる。 ・コロナ禍前には実施していた「運営懇話会」は、広い視点から様々な意見が得られる貴重な場であることから、今後の再開を期待する。
--	---

5. 事業の企画・実施

(1) 野外活動の普及・振興のための考え方や方針

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
野外活動の普及・振興のための取組	事業計画に基づき、野外活動の普及・振興に取り組んでいる	A	B	C	A	B	C
	with/after コロナを踏まえた施設運営・事業展開	A	B	C	A	B	C
	新しい生活様式を踏まえた、プログラム提供、教室事業等に取り組んでいる	A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄		選定評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <p>〔野外活動の普及・振興〕</p> <p>野外活動の楽しみ方が多様化している社会状況に対応できるよう、「人」「プログラム」「フィールド」の3要素を整える取り組みをしています。</p> <p>人材育成の面では、Zoomを活用しながらアウトドアリーダー養成講座を継続して開催し、野外活動センター3施設をはじめ、地域等で活躍できる指導者を養成しています。また、教室事業では近隣の大学と協働したプログラムを展開するなど、学生の実習を受け入れながら新たな事業展開に取り組んでいます。</p> <p>プログラムの面では、with/after コロナを踏まえた集団から個人・家族に対応した炊事のメニュー開発、人気のソロキャンプが体験できる教室事業展開など、社会状況に応じた取り組みを進めてきました。また、モルックやボッチャなどのインクルーシブスポーツの体験機会を提供しています。</p> <p>こうしたプログラム提供を実現するための用具や場所を整え、多様なニーズに応えます。</p> <p>〔with/after コロナを踏まえた施設運営・事業展開〕</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染状況など社会的状況を考慮し、プログラムの開発・提供や教室事業の展開を行ってきました。</p> <p>プログラムの開発・提供では、個々に炊飯をするメスティンを導入し、野外料理を楽しめるメニューを提供してきました。その一方、流しそうめんや餅つきなどのメニューは一時取り止めていましたが、今シーズンより再開しました。</p> <p>教室事業では、家族単位で楽しめるレシピを作成しBBQやピザなどの野外料理を中心とした教室事業を展開してきました。</p>		<p>【現状の評価】</p> <p>〔野外活動の普及・振興〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアリーダー養成講座を開催し、野外活動センター3施設をはじめ、地域等で活躍できる指導者を養成している点、近隣の大学と協働したプログラムを展開する等の新たな事業展開に取り組んでいる。 ・コロナ禍の影響も勘案し、参加しやすい人数形態でのプログラムを開発し、またインクルーシブの視点からのプログラムも導入するなど、社会状況や時流に応じた柔軟なプログラム展開が図られている。 <p>〔with/after コロナを踏まえた施設運営・事業展開〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・with/after コロナに向けてのプログラムや集団から個人・家族という単位での炊事メニューなど実情に沿った取り組みが行われている点の評価する。 					

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>コロナ禍ではプログラム提供や利用団体数・人数の制限、教室事業の宿泊や定員を縮小し、徐々に解除するなどの対応を行ってきました。今後は、コロナ禍前の状況に戻っていくことが予想されます。その際のアライメントスタッフの増員やボランティアスタッフの拡充といった体制の復活が急務となっています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に限らず、様々な感染症に対応した注意喚起や対策を維持しつつ、お客様の希望により従来のグループによる炊事、家族単位や個々にでも楽しめる炊事が選択できる環境を保持していきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後の社会的状況を十分に踏まえた上で、従来型のプログラムの再検討や、個人あるいは家族を対象とするプログラム等の開発に期待したい。 ・プログラムの開発にあたっては、必要となる労力や経費などのコストの見込みを立て、収支の圧迫につながることはないよう、事業の効率性も配慮することが望まれる。
--	--

(2) 野外活動センター3施設の特性と連携

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
野外活動センター3施設の特性と連携 事業計画に基づき、3施設の特性を活かした取組みを行うとともに効果的な連携を図っている		A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
【評価の根拠】 三ツ沢では、三ツ沢公園と連携したイベントの実施、横浜銀行アイスアリーナと連携した学校利用のプログラムコーディネートのほか、近隣大学との協働による教室事業の開催など、特に周辺環境を活かした事業を展開しています。 くろがねでは、鶴見川支流でのカヤックやソロキャンプ教室の開催など、特に自然環境を活かした事業を展開しています。 こども自然では、子ども連れの家族で賑わう週末に当日受付の焼いも体験会の開催や公園内の「どろんこクラブ」と連携したイベント実施など、特に周辺環境を活かした事業を展開しています。 3施設一体管理のスケールメリットを活かした連携は、緊急時等に職員が他の施設でも業務が行える体制を整えており、他施設での研修を含めた応援勤務も随時行っています。 業務委託や物品等を当協会内で一括発注する体制をとるなど、経費削減に取り組んでいます。このほか、共通テーマでの教室開催や大規模イベントでの出展によるPR活動、アウトドアリーダー養成講座の開催など、連携力を発揮した取り組みを行っています。				【現状の評価】 ・3つの施設それぞれが、立地特性や、建物の特性を生かした事業展開を図っている一方で、共通化が可能な部分については、連携を図り、経費削減やプログラム開発などで相乗効果が発揮されている。			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>三ツ沢競技場を拠点としているプロスポーツチームや、三ツ沢公園及びこども自然公園と連携したイベントの展開を提案、調整していきます。</p> <p>コロナ禍で集合研修が3年間実施できていなかった、少年自然の家2施設を含めたプログラム開発や共有研修会について今年度からの再開、各施設の特徴あるプログラムや季節ごとのプログラム展開を知り、自施設のプログラム開発に活かしていきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3施設それぞれが、異なった個性を有していることについて、外部へのアピールがやや希薄に感じられる。チラシのように、各施設を並べて、比較ができるようにするなど、見た人がニーズに合った施設を選択できる情報の発信が望まれる。 ・3施設による共有研修会を再開し、各施設の特徴あるプログラムや季節ごとのプログラムを知って、自施設のプログラム開発に活かすことを期待する。 ・スポーツ観戦と野外炊事という新たな取り組みにも期待している。
---	--

(3) プログラムの開発と実施計画

ア ミツ沢公園青少年野外活動センター

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
	プログラムの開発と実施計画	A	B	C	A	B	C
	青少年を対象としたプログラムを開発し、実施している						
	自主事業の実施計画	A	B	C	A	B	C
	自主事業の目的と効果を明確にして、事業を実施している						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】 〔プログラム〕</p> <p>プログラムの開発にあたり、施設環境や特性、利用者のニーズを把握し、プログラム開発をするようにしています。まず、教室事業の中でプログラムを展開し、その後、確立したものを利用団体に提供するようにしています。</p> <p>現在は、グループでミツ沢公園内の生き物を探し、種類や生息する場所などの分類をする調べ学習により、自身が住む町や身近な公園の環境を知るといったプログラム開発に取り組んでいます。</p> <p>保育園等の幼児団体が利用する焼いも体験では、職員が常時サポートし、焼いている間には生き物探しや植物探しなどの自然遊びを展開する取組も行っています。</p> <p>SDGs等の環境保護についてのプログラム事例は、活動内容をホームページに掲載し、保護者をはじめ、今後の利用者に向けてお知らせしています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、人気のある流しそうめんや餅つきなどについては、令和5年から提供を再開しています。</p> <p>〔自主事業〕</p> <p>教室事業の計画にあたっては、実施後の振り返りや参加者の声を活かして、その都度改善しています。また、応募状況や施設の空き状況を勘案し、参加者数や開催回数を増やして実施するなど、柔軟な対応をしています。</p> <p>横浜国立大学や神奈川大学との協働で夏休みの工作教室や大学キャンパスでの工作教室を開催しました。また、もしもの体験キャンプでは、横浜市防災センターと連携して地震体験、消火器体験、講話など消防士の生の声を聞き、体験しました。</p> <p>令和4年度の教室定員に対する充足率は83%で、100%を大きく超える事業も多々ありましたが、やや</p>				<p>【現状の評価】 〔プログラム・自主事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設環境や特性、利用者のニーズを把握したプログラム開発を行っている。 横浜国立大学や神奈川大学との協働で夏休みの工作教室や大学キャンパスでの工作教室を開催するなど大学生と子どもの異年齢交流が図られている点、「もしもの体験キャンプ」で横浜市防災センターと連携している点など、各関係機関との連携が図られている。 自然環境を活かしたSDGsのプログラムや、誰もが気軽に参加できる焼いも体験など、提供プログラムの創意工夫が図られている。 自主事業の収支がプラスとなり、収益を確保した点を評価する。 			

<p>計画通りに行かない実績となりました。</p> <p>その他の自主事業においては、利用者数の減少に伴い令和4年度における食材の受注数も減少しましたが、令和5年度上半期は少しずつ回復してきています。令和4年度の自主事業の収支について、提案では1,278千円プラスのところ、決算では1,912千円プラスと収益を上げています。</p>	
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>三ツ沢公園の豊かな緑、プロスポーツ団体の本拠地である特性を活かし、スポーツ観戦と野外炊事のプログラムを展開する連携事業を計画、交渉を開始しています。</p> <p>3月には三ツ沢公園感謝デーに参画、野外炊事場でマシュマロ焼きやおせんべい焼きなどを行い、施設や教室事業のPRを行います。</p> <p>次年度のスポーツ・レクリエーションフェスティバルは三ツ沢公園と連携して開催、神奈川大学のボランティア部と連携してこども対象のイベント開催を計画しています。また、コロナ禍で見送っている宿泊キャンプは、家族対象のものも体験キャンプ、小学生対象のチャレンジパークで再開を計画しています。</p> <p>新たに展開されたプログラムを利用の手引きに掲載、SDGsの取り組みは各事業の中で展開し、理解を深める取り組みを継続していきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三ツ沢公園の豊かな緑、プロスポーツ団体の本拠地である特性を活かした事業の展開に期待する。 ・近隣大学のボランティア部との連携が長く続いていくことを期待する。また、そこから野外活動ボランティア養成講座、アウトドアリーダー養成講座などへ自然に参加するよう促す方法なども検討してほしい。 ・SDGsの取組はすでに実施しているが、小中学校でも、SDGsの教育に力を入れていることから、学校との連携により、プログラムを開発・実施していくことも考えられる。 ・地球環境の課題として「生物多様性」、「気候変動」というキーワードをより意識した運営、方針、プログラムを積極的に取り入れることを期待する。 ・多様なプログラムを提供する中で、年度ごとの実績を検証し、費用対効果の面も勘案したプログラム開発を期待する。

イ くろがね青少年野外活動センター

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
	プログラムの開発と実施計画	A	B	C	A	B	C
	各施設において、青少年を対象としたプログラムの開発と実施計画に取り組んでいる						
	自主事業の実施計画	A	B	C	A	B	C
	自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】 〔プログラム〕 バランス、冒険、コンパスワーク、五感の4セグメントからなるトレイルプログラムを作成中です。そのうち2セグメントは勢いや速度を要さず、肢体不自由児者でも楽しむことができるため、インクルーシブプログラムとして、単一のプログラムとしても、セグメントの入れ替えや加除による組み合わせでも提供可能となっています。また、このプログラムは、施設管理地内の比較的自然が多いエリアで行うため、夏季でも緑陰に守られながら活動ができるよう工夫しています。</p> <p>〔自主事業〕 幼児と保護者対象の教室事業すくすくアウトドアクラブでは、敷地内に整備した畑を活用し、季節ごとに収穫体験を実施しています。収穫した野菜を食べることで自然の恵みを実感し、葉や茎なども余すことなく使用することにより食物廃棄の課題を意識する機会にしています。</p> <p>また、小学生対象のあったかエコキャンプでは、鶴見川の成り立ちや役割の講義、タイヤチューブでの川下り、生物の採集を展開しながら鶴見川を知る活動を実施しました。水面に漂いながら普段は見ることのできない横浜の風景に触れつつ、水際に漂うゴミを認識し、それらが海にまで及ぶ環境破壊につながることや、自然を自身の行動により守ることを意識する機会としました。</p> <p>令和4年度の教室定員に対する充足人数は65%で、計画通りにできない事業が多くありました。食材販売や物販事業等は利用者数の減少により、受注数が減少しています。しかしながら、自主事業収支で見れば、提案では1,264千円プラスのところ、決算では1,623千円プラスと収益を上げています。</p>				<p>【現状の評価】 〔プログラム・自主事業〕 ・施設の特性を生かし、かつインクルーシブプログラムとして提供できる「トレイルプログラム」に注目している。 ・幼児と保護者対象の教室事業「すくすくアウトドアクラブ」、小学生対象の「あったかエコキャンプ」などの魅力的な事業や、施設特性を活かした鶴見川を活用した成り立ちや川の役割の講義、川下りのプログラムを提供している点を評価する。 ・自主事業の収支について、提案を上回る収益を上げた点を評価する。</p>			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>開発中のトレイルプログラムは、教室事業で取り入れて実施し、変更・改善を経て利用団体へ提供するための資料を作成していきます。また、学校利用時に対応できるよう、近隣学校からの意見収集を行う予定です。</p> <p>子どもの体力向上を図りながら、誰もが楽しめるニュースポーツを展開する教室事業を企画していきます。</p> <p>また、コロナ禍で見送ってきた子どものみを対象とした宿泊型キャンプの教室事業を企画・実施していきます。</p> <p>利用団体単位の参加人数が減少する中、最低金額の設定がある食材受注が難しくなっている現状を踏まえ、仕入れ業者を介さない調達方法を検討していきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発中の「トレイルプログラム」やコロナ禍で見送られてきた「子どものみを対象とした宿泊型キャンプ」の開始に期待する。 ・食材受注については、地元の事業者（商店）の利用など、仕入れ業者を介さない調達方法による地産地消を継続してほしい。 ・インクルーシブや食育、鶴見川環境といったテーマについて、これらに関連する活動を行っているNPO法人などの団体も多くあることから、それら団体への情報発信や、事業連携を図ることも考えられる。 ・「すくすくアウトドアクラブ」の教室事業では、収穫体験だけでなく、種まきや草刈りなど、節目での参加機会を設けることで、「野菜を育てる体験」につなげることも考えられる。
--	---

ウ こども自然公園青少年野外活動センター

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
	プログラムの開発と実施計画	A	B	C	A	B	C
	各施設において、青少年を対象としたプログラムの開発と実施計画に取り組んでいる						
	自主事業の実施計画	A	B	C	A	B	C
	自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】 〔プログラム〕 コロナ禍では、既存プログラムをどうすれば安全に提供できるかといった、集団から個別で体験できる手法の工夫に力を注いできました。 プログラム開発は、主に教室事業を通して取り組んでいます。新たにSDGsをテーマにした「ペットボトルキャップゴルフ」、秋冬に楽しむクラフトで「スノードーム」をプログラムに取り入れて実施し、利用団体に提供しています。 幼児教室などの継続事業はリピーターが多く、特に野外炊事やお菓子作りといったメニューのバリエーションや調理方法の工夫をしています。この経験を活かし、利用団体の事前打ち合わせ時に相談があった際にアドバイスしています。</p> <p>〔自主事業〕 教室事業の企画・実施にあたっては、SDGsの取り組みやインクルーシブな視点を大切にしています。小学生を対象にした事業では、野外炊事で排出したごみや公園でのゴミ拾いで集めたごみをテーマに環境問題を考えたり、水をテーマにしたゲーム（Project WET）を通して水資源の大切さに気付いたりといったキャンプを実施しています。 令和4年度の教室定員に対する充足率は81%となり、大きく定員割れする事業はあまりないものの、やや計画通りに行かない実績となりました。 その他の自主事業については、自販機の増設、レンタル品の充実を図るなど、確実に収益を確保しています。令和4年度の自主事業収支の提案は1,927千円プラスでしたが、決算では3,458千円プラスと収益を上げています。</p>				<p>【現状の評価】 〔プログラム・自主事業〕 ・コロナ禍の制約の中でも、「ペットボトルキャップゴルフ」や秋冬に楽しむ「スノードーム」クラフトなど、SDGsやインクルーシブな視点を大切にしながら新たなプログラムを開発するなど、事業の充実に努めている。 ・学校利用の促進についても、小学校4年生をターゲットにした新規プログラムの開発を予定しているなど、意欲的な姿勢が見られる。 ・現代のニーズに合った、集団から個別で体験できる手法の工夫ができています。 ・自主事業の収支について、提案を上回る収益を上げた点を評価する。</p>			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>小学校宿泊体験の申し込みが減少しているため、小学4年生をターゲットにした新規プログラムの開発をしていきます。</p> <p>こども自然公園を管理する横浜市環境創造局では、「こども自然公園パークマネジメントプラン」を策定中です。パブリックコメントから新たな発想やヒントを得ながら市民ニーズに応じていきます。</p> <p>飲食事業、物販事業、レンタル事業については、仕入単価の値上がりに販売価格が追い付かない状況のため、価格を見直して収入確保に努めていきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のその学年の担任との連携により、事前指導による音楽を活かした展開や、キャンプファイヤーに理科の化学反応を入れて色とりどりの点火のヒントを伝えるなど、驚きと感動を与えるプログラムの提供を期待する。 ・コロナ禍後の小学校行事は、削減・縮小される傾向にあり、従来型の宿泊体験の減少が見込まれるため、学校・教育委員会の意向を探りながら、新規のプログラム開発が求められる。 ・リピーターの多い教室事業については、クラブ組織を立上げ、会員登録をしてもらい、メルマガ配信などにより情報提供することで、参加の促進を図ることも考えられる。 ・インクルーシブや食育、環境などのテーマについては、小中学校などの教育機関や、これらテーマに関連する活動を行っている NPO 法人などの団体などとの連携も考えられる。
--	---

(4) 広報活動及び利用促進

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
市民に広く野活センターの魅力をお伝えする 広報計画	市民の視点に立った分かりやすい広報活動、効果的な広報計画に取り組んでいる	A	B	C	A	B	C
	利用促進・利便性向上に向けた具体策	A	B	C	A	B	C
利用促進に資するサービス、快適な施設利用のためのサービス提供や環境づくりに取り組んでいる		A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>〔広報活動〕</p> <p>令和5年2月末にホームページを大幅にリニューアルし、スマートフォンやタブレットでも見やすくし、3施設の統一感を高めました。ウェブアクセシビリティを向上させ、JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠していることを公表しました。</p> <p>教室事業の周知は、ホームページや広報よこはま区版が中心です。Facebookに加え、InstagramといったSNSを活用し教室の活動内容の紹介や開催の案内をしています。紙媒体のチラシは、地域や近隣の小学校や幼稚園等へ配布の依頼をするなど、事業対象にあわせた広報活動を行っています。</p> <p>また、令和4年度と5年度に、新横浜公園で開催されたピクニックパーク（イベント）へ出展し、教室チラシの配布・SDGsの取り組みを紹介しました。</p> <p>今年度は、見やすく手に取りたくなるチラシ作りのため、横浜デジタル専門学校学生との連携により、3施設のキャラクターイラストの制作、チラシデザインのフォーマット化を進めています。</p> <p>〔利用促進・利便性向上〕</p> <p>積極的な利用促進を図ることが難しい状況下で、少しでも利用を増やすため、教室の新規実施や見直しを行っています。</p> <p>令和4年度には、施設内の案内板や案内図が誰にでもわかりやすくなるよう、施設の場所を表示するピクトグラムを横浜デジタル専門学校と連携して作成し、掲示しました。</p> <p>清潔に気持ちよくお休みいただけるよう、第4期指定管理開始に合わせ、寝具のリースを更新しました。</p> <p>熱中症対策のため、冷房の稼働時間の設定を柔軟に対応し安全に過ごしていただけるように改善し</p>				<p>【現状の評価】</p> <p>〔広報活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年2月末にホームページを大幅にリニューアルし、スマートフォンやタブレットでも見やすくし、3施設の統一感を高めた伝わりやすい広報に努めている点を高く評価する。 横浜デジタル専門学校学生との連携により、3施設のキャラクターイラストの制作、チラシデザインのフォーマット化、ピクトグラムの掲示など、分かりやすい広報の新たな試みを評価する。 <p>〔利用促進・利便性向上〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 三ツ沢の食堂に空調機を設置するなど、熱中症対策のため、冷房の稼働時間の設定を柔軟に対応し安全に過ごすように改善できている点を評価する。 			

<p>ました。また、三ツ沢では、令和5年夏に食堂に空調機を新たに設置しました。</p>	
<p>【今後予定している取組等】 〔広報活動〕 今後重要になってくると思われる SNS の広報媒体については、更新頻度のアップや魅力的な活動内容の紹介を掲載するとともに、当団体が管理運営する施設の SNS のフォローや「いいね」をして、フォロワーの増加や拡散を促していきます。 教室事業チラシの横浜市立小学校全児童配布は市庁舎の移転に伴い中断していますが、横浜市教育委員会の協力を得て、再開する予定です。 紙媒体は誌面スペースが限られているため、QRコードを活用し、詳しい情報はホームページで確認するように促しよう、工夫します。</p> <p>〔利用促進・利便性向上〕 安全確保のための緊急修繕が中心となっていますが、壁紙の張替え等の快適な環境を提供するための修繕も可能な範囲で計画していきます。 令和4年度に作成したピクトグラムを配置図などの利用案内資料に活用し、より分かりやすいものにしていきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの大幅リニューアルにより各施設の紹介は充実したが、それぞれの施設の特徴を比較する情報が弱く感じられる。チラシのように、各施設を並べて、比較ができるようにし、見た人がニーズに合った施設を選択できる情報を発信し、小中学校利用の促進に結び付けていくことを期待する ・各施設のキャラクターイラストに加え、それぞれの特性が伝わるキャッチフレーズも考案し、併せて発信していくことで、インパクト高く各施設の魅力を伝えていくことを期待する。 ・3施設のキャラクターの活用方法として、チラシだけではなくホームページや、実際の館の中の案内など幅広く作っていくこと、さらに、デジタルコンテンツを SNS の中にも登場させて活用するなどが考えられる。 ・SNS の広報媒体については、更新頻度のアップや魅力的な活動内容の紹介を心がけて欲しい。 ・小・中学校へのチラシの配布については教育委員会との連携が必須である。

(5) 学校教育機関・他青少年施設・地域等との連携や協働

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
学校教育機関・他の青少年施設・団体との連携や協働 学校、青少年施設、団体等との連携・協働が図られている		A	B	C	A	B	C
地域とともに歩む施設づくり 地域との連携・協働が図られている		A	B	C	A	B	C
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
【評価の根拠】 横浜市立の学校の優先利用については、横浜市教育委員会と連携し日程調整を進めています。空き日程については、随時、優先的に予約を受付けています。 中学校の職場体験学習、大学のサービスマーケティング実習、教職員の社会体験実習の受け入れを行っています。また、デジタルアーツ専門学校との協働により、令和4年度はピクトグラムの作成しました。令和5年度は、施設キャラクターの制作、チラシのフォームづくりを進めています。 三ツ沢では、大学のゼミや授業で野外活動の安全についての講義などを行いました。特に横浜国立大学や神奈川大学とは、教室事業において協働でプログラム展開をするなど、関係性を深めています。 くろがねのスポーツ・レクリエーションフェスティバルでは、ボーイスカウトやさわやかスポーツ普及委員会と協働してプログラム展開をしています。 こども自然では、夏休み中に公益財団法人よこはまユースが主催する中高生対象のボランティア体験を受け入れました。 地元住民の方が参加できるスポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催や近隣の公園来園者が気軽に楽しめる焼きも体験の実施を行っています。また、近隣住民のみなさんが参加できる健康教室の実施により、地域の身近な施設として認知していただけるよう努めています。 くろがねと所縁の深い鉄小学校とは、学校行事や周年事業に参加するなど、地域との関係性を深めています。 三ツ沢公園・こども自然公園の管理事務所とは、定期的に情報共有を行っており、公園全体のイベントへの参画について調整しています。				【現状の評価】 〔他機関等との連携〕 ・横浜市教育委員会との連携、デジタルアーツ専門学校との協働、横浜国立大学や神奈川大学、ボーイスカウト、さわやかスポーツ普及委員会と協働したプログラム展開など、小中学校のみならず、大学との協働や、中高生のボランティア体験の受け入れを図るなど、多様な若者層との連携が図られている点を評価する。 〔地域との連携〕 ・地元住民の方が参加できるスポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催や近隣の公園来園者が気軽に楽しめる焼きも体験、近隣住民が参加できる健康教室の実施等、鉄小学校との連携等、地域との連携・協働が図られる施設となっている点を評価する。			

<p>【今後予定している取組等】</p> <p>これまでの連携や協働で事業展開している学校や各種団体とは、今後も連携・協働を継続していきます。また、デジタルアーツ専門学校とは、3施設の利用案内リーフレットなどのデザインに取り組み予定です。</p> <p>コロナ禍で疎遠になっている地域の福祉施設との連携では、イベントでの物販や施設の行事のお手伝いなどを復活していきたいと思います。また、地域の子育てサークルや不登校児童の支援団体などと連携し、活動のアドバイスや居場所づくりの支援をしていきます。</p>	<p>【改善に向けた意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルや不登校児童の支援団体に限らず、他のテーマのプログラムにおいても、当該テーマで活動している団体との情報交換や事業連携を検討していくことが望まれる。 ・高校や大学との連携において、学生が自らプログラムを企画・運営する場面も創り、高校生・大学生にとっても、日頃得られない体験の場としていくことが期待される。また、それらを通じて、参加する子ども達が、異世代交流する機会が提供されることも期待する。 ・中学生の宿泊利用が減っているようだが、職場体験学習などで、もっと施設の状況や、工夫など生の情報を知ってもらい利用が増えることを期待する。 ・連携や協働を図っている学校や団体との関係をより深化させるとともに、属人ではなく組織としての連携に進展することを期待する。
--	---

6. 収支計画及び指定管理料

(1) 収支計画及び指定管理料

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																																													
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																																													
第4期指定管理での利用者目標 利用者人数について、指定期間の達成目標に対し、順調に推移している		A	B	C	A	B	C																																											
収入増の取組と支出計画 安定した収入源の確保と安全性・効率性を重視した支出により、計画通り収支が推移している		A	B	C	A	B	C																																											
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																																														
【評価の根拠】 [利用者目標] 令和5年4月までは新型コロナウイルス感染症対策として宿泊制限(人数・利用間隔)、一部プログラム(流しそうめん、餅つき)の中止を行いました。 5類移行後、制限を解除し、徐々に宿泊利用が増え、延べ人数も伸びてきていますが、1団体の人数は減少傾向にあること、日帰り利用の割合が高いため、コロナ禍前平均と比較し令和4年度で50%程度、令和5年度上半期で60%にとどまり、提案時の回復率とは乖離があります。 目標に対する達成率では、R4年度、R5年度上半期とも3施設合計で78%にとどまっていますが、こども自然は教室事業が好調であること、宿泊利用が増えてきていることから、R5年度上半期は98%と、ほぼ計画どおりとなっています。				【現状の評価】 [利用者目標] ・新型コロナウイルス感染症対策の制限などがあったため、令和4年度、令和5年度上半期の利用者数が目標に達しなかったのは、やむを得ない要素が大きい。 ・こども自然公園においては、令和5年度上半期の利用者数が目標の98%となったことは、明るい兆しととらえられるが、令和4年度、令和5年度上半期とも3施設合計で78%にとどまっており、施設によりばらつきが見られる。 [収入増の取組と支出計画] ・厳しい環境下にあつて、令和4年度実績は、3施設ともに全体収支が黒字となり、その中で自主事業において収益が確保できている。																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>延人数</th> <th>コロナ前平均</th> <th>コロナ前比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三ツ沢</td> <td>27,283</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>くろがね</td> <td>21,056</td> <td>49%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>34,024</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>82,363</td> <td>51%</td> </tr> </tbody> </table>		延人数	コロナ前平均	コロナ前比較	三ツ沢	27,283	44%	くろがね	21,056	49%	こども	34,024	58%	合計	82,363	51%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R4実績</th> <th>R4目標値</th> <th>R4達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,939</td> <td>16,400</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>10,217</td> <td>14,800</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>19,762</td> <td>22,200</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>41,918</td> <td>53,400</td> <td>78%</td> </tr> </tbody> </table>		R4実績	R4目標値	R4達成率	11,939	16,400	73%	10,217	14,800	69%	19,762	22,200	89%	41,918	53,400	78%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R5上半期実績</th> <th>R5上半期目標値</th> <th>R5上半期達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,053</td> <td>11,300</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>6,195</td> <td>9,633</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>14,692</td> <td>15,000</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>27,940</td> <td>35,933</td> <td>78%</td> </tr> </tbody> </table>		R5上半期実績	R5上半期目標値	R5上半期達成率	7,053	11,300	62%	6,195	9,633	64%	14,692	15,000	98%	27,940	35,933	78%
延人数	コロナ前平均	コロナ前比較																																																
三ツ沢	27,283	44%																																																
くろがね	21,056	49%																																																
こども	34,024	58%																																																
合計	82,363	51%																																																
R4実績	R4目標値	R4達成率																																																
11,939	16,400	73%																																																
10,217	14,800	69%																																																
19,762	22,200	89%																																																
41,918	53,400	78%																																																
R5上半期実績	R5上半期目標値	R5上半期達成率																																																
7,053	11,300	62%																																																
6,195	9,633	64%																																																
14,692	15,000	98%																																																
27,940	35,933	78%																																																
[収入増の取組と支出計画] コロナ禍の影響や光熱水費等の高騰を反映した収支予算とし、利用にかかる収入や、飲食・物販等の収入が見込めない中、提案よりも教室事業収入を																																																		

あげることで収入を確保するようにしました。

また、支出において、電気料の高騰により負担は増えていますが、3施設一体管理のメリットである入札や一括発注を行ったり、支出を精査したりすることで、全体として経費を抑制することができています。

収入	R4 提案	R4 予算	R4 実績
利用にかかる料金	7,806,000	8,386,400	5,832,470
三ツ沢	2,327,000	2,585,000	1,727,600
くろがね	1,120,000	1,184,700	706,940
こども自然	4,359,000	4,616,700	3,397,930
自主事業収入	12,736,000	16,094,100	14,430,115
三ツ沢	3,624,000	4,617,800	3,790,924
くろがね	3,643,000	4,472,600	3,340,342
こども自然	5,469,000	7,003,700	7,298,849
合計	20,542,000	24,480,500	20,262,585
うち教室事業	8,816,000	11,928,400	9,839,220
三ツ沢	2,546,000	3,517,800	3,008,420
くろがね	2,900,000	3,736,700	2,562,500
こども自然	3,370,000	4,673,900	4,268,300

【今後予定している取組等】

社会的ニーズを踏まえ、利用者を増やしていくためには、プログラムの拡充や気軽に参加できる事業の企画、広報、利用者へのサポートが必要だと考えています。そこで、リーフレットを更新、ホームページやSNS等を通じ施設のPRを強化していきます。物価高騰が続く中では、利用にかかる料金や自主事業の単価見直しを検討し、適正な受益者負担を図りつつ、収入を確保します。

【改善に向けた意見】

- ・コロナが5類相当に引き下げられたが、今後も利用者数の急速な回復を望むのは難しい可能性も考えられる。一方で、水道光熱費や物価の高騰など、コスト増といった厳しい課題にも直面しているため、数値目標達成のために無理をすることなく、可能な範囲で採算を確保していく運営を視野に入れていくことも検討の余地があるかもしれない。
- ・数値だけを追い求めることなく、質の充実を図っていくことが望まれる。
- ・多様化している社会的ニーズを的確に把握し、どのような層をターゲットとするかを明確にし、団体でできるスケールメリットを生かした事業展開、利用者増につながるプログラムの拡充や広報活動に期待する。